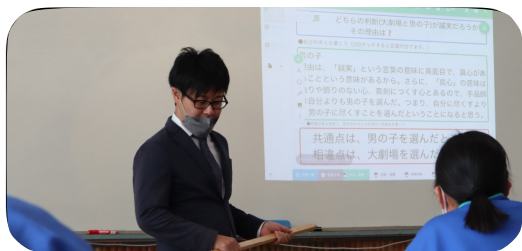


家庭学習からスタートする道徳の授業

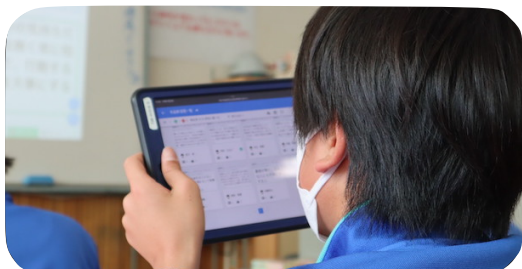
「子どもとの約束を守り通した手品師」の物語を通して、どちらの判断が誠実であるか。誠実な人とはどのような人なのか。について考える授業です。生徒は家庭学習として自分の考えをスクールタクトに書き込み共有しています。クラス全員の考えを知った状態で授業に臨みます。家庭学習からスタートすることで授業の見通しを持ち、話し合いの必要感が持てました。



①生徒は「大劇場への出演のチャンスをつかんだあまり売れない手品師が出演を断って貧しい男の子のために手品をする」物語をあらかじめ家庭学習として読み、自分の考えをスクールタクトに入力してあるところから授業が始まりました。



②スクールタクトの「共同閲覧モード」を使って、友だちの考えを事前に確認し共通点や相違点について知っているので、どちらの判断が「誠実」であると言えるか？その根拠について考え合いました。仲間の様々な考えに触れることによって客観的な視点から手品師についてとらえます。



③「誠実な人とはどのような人か？」という中心発問から生徒たちはこれまでの議論をもとに、「誠実さ」は多義的であり、自己実現（自分に対する誠実）と他者への配慮（他者に対する誠実）の面があることを考えていきました。

今日の振り返りを書く。事前学習から今日の授業を終えて

●振り返りを書く（2回タッチすると言葉が打てます。）

最初（事前学習の時）は、相手に対するの真心や優しさで男の子の方の判断が誠実だと思い、大劇場の方の判断を否定していました。しかし、皆の考えを知ってどんな人が誠実なのかについての考えが変わり、自分自身も含めて人と平等に関わりあえる人なのかもしれないと思うようになりました。

④スクールタクトに「家庭学習で考えた誠実さ」と「この授業で考えた誠実さ」の変容に着目し、振り返りを入力しました。個人での変容をクラスの仲間と共有し「オープンエンド」で授業が終わっていきました。

長谷中学校 1年 田中裕也 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

伊那市学力向上検討委員会の先生方と

「ICT活用教育」について考える

伊那市のICT活用教育は、「授業での有効活用に関する研究」に移り変わっています。「伊那市学力向上検討委員会」の先生方にもご協力をいただき、授業研究を行っています。3回目は、長谷中学校の田中裕也先生に道徳の授業を提供していただき、学び合いました。



欠席の生徒も授業に参加し発言をしていました



委員の先生方、長谷中学校の先生方も参観しました

参加された委員の先生方のご意見を紹介します

- 今日の授業には「学び」がたくさんありました。以前から道徳とICTが一番遠いところにあると言われていました。今までに見た多くの授業でもICTを使わなくてもできる場面で「代用」として使っていました。今日の授業ではICTを使うことによって家庭学習として事前に各自の考えが書かれ、共有されていることによって追究の時間がたっぷり確保されていました。じっくりと考えるような場面でも時間が確保され瞬時に共有されていました。また、欠席者も共に学び発言もしている。先生側にしてみると指名計画がすぐたてられて授業も深まっています。今日の道徳の授業ではICTが生かされていたと感じました。
- 事前学習（家庭学習）で自分の考えをスクールタクトに記入し、自分の考えを明らかにした上で学習を進めたことで、時間のゆとりが生まれました。これが、主体的に学習に関わるためのスタートとして非常に有効だと感じました。ICTは自他の考えを知るためのツールとして即時性があり、学習中いつでも見られるという点でも有効でした。深い学びのある生徒たちだと感じました。さらに生徒同志の対話によるそれぞれの価値観に触れ、葛藤し新たな考えに至る授業だと思いました。
- 友だちの考えを知った上で葛藤する自分の姿をみんなに知ってもらうことも道徳の授業の中では大切にしたい。その葛藤する姿をどう語り合えるかを大事にしたい。とすると、子どもたちの対話を上手に生み出すためにキー

ワードを提示できるような板書があるとより深まった授業になっていったと思う。

子どもたちがお互いの顔を見ながら「それってどういうこと」というように切り返しながら対話していく場面が出てくるとさらにどろっとした部分が出てくるのではないかと思います。色々な意味で子どもたち自身が育ってきているのももっとも追究ができていないのではないのでしょうか。

ICTを活用することで友だちの考え（書いたこと）をすぐに見ることができ、自分の考えを深めることができます。さらに欠席者も授業に参加できている。自分の振り返りを効果的にできます。事前学習（家庭学習）を有効に活用する展開はどの教科でも使えたいと思います。スクールタクトに書かれていることなのであえて発表させることの意味は考えたい。すでに友だちの考えが共有されているので、もっと聞きたい部分もあったようです。そのことから友だちの考えを自由に聞き合う時間をもっとあっても良かったのではないのでしょうか。

授業された田中裕也先生から

道徳の授業の中でも難しいテーマを選びました。先生方からお話をいただいたとおり、生徒どうしの対話を通して自分の考えを再構築するよう授業展開が望ましいと考えました。自分の考えを伝える力を育んできたいと思いました。先生が授業をするのではなく、生徒たちが対話する場面に先生が寄り添っていくような道徳の授業を作り上げていきたいと思っています。